

平成26年度

恵那市市民評価委員会提言書

平成26年11月4日

恵那市市民評価委員会

目 次

1. はじめに	1
2. 平成26年度市民評価委員会の活動	2
3. 市民評価委員会による評価結果	4
(1) 市立恵那病院管理経費	5
(2) バイオマスタウン構想事業	6
(3) 木漏れ日作戦事業	7
(4) 雇用対策推進事業	8
(5) 選挙管理委員会事務	9
(6) 老人クラブの運営支援	10
(7) こども元気プラザの運営	11
(8) 商店街活性化事業	12
(9) 明智観光関連施設管理事業・大正村コテージこもれび管理事業	13
(10) 正家廃寺跡保存整備事業	14
4. おわりに	15

1. はじめに

本委員会では、平成25年度に行政が行った約600ある事務事業のうち、市民評価委員自ら選定した10事業について、現地視察と担当者からの説明によって理解を深め、市民の視点から評価を行いました。

今回は全委員が2年目となり、昨年度の問題点を整理し、評価に臨みました。変更した点の一つは、評価事業の選定にあたって、平成25年度に実施された市民意識調査の結果を重視したことです。調査において重要度が高く満足度が低い重点課題とされた事業を中心に事業の選定をおこない、すべての事業を市民評価委員が選定いたしました。昨年度から事業数が減りましたが、1つの事業に対する理解を深めた上で評価をすることができました。

評価結果の表記は、昨年と同様に正当性や効率性の評価をそれぞれ記号で示し、改善提案、今後の展開方向を文章で表記し提言として取りまとめました。

今後、ここに提出した提言書を行政で十分に検証した上で、可能な限り行政運営に反映し、より良い市政運営がなされることを期待いたします。

平成26年11月4日

恵那市市民評価委員会

委員長	市川 美彦
副委員長	田口 讓
委員	大竹 典子
委員	奥村ひとみ
委員	柘植 麻美
委員	平野 未帆
委員	宮地 政臣
委員	三輪 哲司
オブザーバー	竹内 泰夫

2. 平成26年度市民評価委員会の活動

第1回 平成26年7月10日(木)

- 本年度の恵那市市民評価委員会について
- 恵那市の行政評価について
- 評価事業の選定について
- 評価の方法について

第2回 平成26年8月28日(木)

- 現地視察と各事業のヒアリング
 - ・こども元気プラザの運営
 - ・市立恵那病院管理経費
 - ・木漏れ日作戦事業
 - ・商店街活性化事業
 - ・正家廃寺跡保存整備事業
 - ・明智観光関連施設管理事業・大正村コテージこもれび管理事業

第3回 平成26年9月4日(木)

- 各事業のヒアリング
 - ・バイオマスタウン構想事業
 - ・雇用対策推進事業
 - ・選挙管理委員会事務
 - ・老人クラブの運営支援

第4回 平成26年10月1日(水)

○評価結果の取りまとめ

第5回 平成26年11月4日(火)

○市長への提言

3. 市民評価委員会による評価結果

公共性、公平性、有効性、効率性についてそれぞれ評価をし、A・B・Cの三段階（A：極めて高い、B：高い、C：やや低い・低い）で示しています。

改善提案と今後の展開方向は、評価を行う中で、委員からの意見、提案をまとめて文章で表現しています。

1. 市立恵那病院管理経費

正当性評価	
○公共性の評価 (市がどうしても行わなければならない事業であるか)	B
○公平性の評価 (税金が公平に分配されている事業か、適正な受益者負担がなされている事業か)	A
正当性評価のまとめ	B

効率性評価	
○有効性の評価 (施策の目的達成に貢献している事業であるか)	A
○効率性の評価 (コスト削減の余地がないか、もっと有効な手段、方法はないか)	B
効率性評価のまとめ	B

改善提案

地域に密着した医療の提供、各種プログラムの提供他、市民の総合的な健康管理に寄与する、市民にとって不可欠な病院である。今後とも市と地域医療振興協会が信頼関係の中で連携を図り、より安心な病院経営を着実に進めていただきたい。

平成 28 年度開院予定の新病院においては市民の要望が高い産婦人科開設を実現されたい。その際には、人口減少など市としての重要施策に必ず効果が上がるよう他の施策を組み合わせる実施されたい。

また、新病院開院とあわせて設置される健診センターにおいては市民の予防医療、予防指導を特化して行う中心施設として健康推進を積極的に実施されたい。

今後の展開方向

- ・維持

2. バイオマスタウン構想事業

正当性評価	
○公共性の評価 (市がどうしても行わなければならない事業であるか)	C
○公平性の評価 (税金が公平に分配されている事業か、適正な受益者負担がなされている事業か)	C
正当性評価のまとめ	C

効率性評価	
○有効性の評価 (施策の目的達成に貢献している事業であるか)	C
○効率性の評価 (コスト削減の余地がないか、もっと有効な手段、方法はないか)	C
効率性評価のまとめ	C

改善提案

平成 20 年に策定されたバイオマスタウン構想だが、構想で示す 4 つの方策のうち汚泥の堆肥化に特化しているのが現状であり、構想が計画で終わってしまっており、全体としては有効に機能しているとは言えない。

4 つの方策はそれぞれ何らかの形で着手がされており、今後どのようにして総合的に実施していくかが重要である。各取り組み毎に方向づけをするよう、今後のあり方を検討されたい。

今後の展開方向

- ・ 検討 (今後のあり方を方向づける)

3. 木漏れ日作戦事業

正当性評価	
○公共性の評価 (市がどうしても行わなければならない事業であるか)	B
○公平性の評価 (税金が公平に分配されている事業か、適正な受益者負担がなされている事業か)	B
正当性評価のまとめ	B

効率性評価	
○有効性の評価 (施策の目的達成に貢献している事業であるか)	C
○効率性の評価 (コスト削減の余地がないか、もっと有効な手段、方法はないか)	C
効率性評価のまとめ	C

改善提案

市道での凍結を防止し、交通安全を確保する重要な事業であるが、事業規模が小さく、実施箇所が少ないのが現状である。

交通安全に関わる他の部署と連携をおこない、市内で対象となる路線の全体把握をし、計画的、効率的に実施する必要がある。

また、対象林が私有地であれば所有者の協力が必要となる。関係地区の自治会等と連携、所有者への指導等理解を得る策を講じられたい。

今後の展開方向

- ・継続（効率性を考えながら継続）

4. 雇用対策推進事業

正当性評価	
○公共性の評価 (市がどうしても行わなければならない事業であるか)	B
○公平性の評価 (税金が公平に分配されている事業か、適正な受益者負担がなされている事業か)	B
正当性評価のまとめ	B

効率性評価	
○有効性の評価 (施策の目的達成に貢献している事業であるか)	A
○効率性の評価 (コスト削減の余地がないか、もっと有効な手段、方法はないか)	B
効率性評価のまとめ	B

改善提案

恵那市雇用対策協議会への補助をおこない、就職面接会、会社説明会等の事業を実施しており、参加者も多い。

市内に就職をすることは定住対策などの人口減少対策にもつながるため、各種施策と連携して雇用促進、就業者の定着を図るよう総合的な取組みを実施されたい。

また、少子高齢化が進む将来において、正社員での雇用、一定の水準の給与といった若い人が市内に住むことができるような雇用のあり方を対策協議会でも重要な位置づけとし、企業への働きかけをされたい。

今後の展開方向

- ・継続（実施方法など改善を図りながら継続）

5. 選挙管理委員会事務

正当性評価	
○公共性の評価 (市がどうしても行わなければならない事業であるか)	A
○公平性の評価 (税金が公平に分配されている事業か、適正な受益者負担がなされている事業か)	A
正当性評価のまとめ	A

効率性評価	
○有効性の評価 (施策の目的達成に貢献している事業であるか)	A
○効率性の評価 (コスト削減の余地がないか、もっと有効な手段、方法はないか)	A
効率性評価のまとめ	A

改善提案

法に基づく手続き及び各選挙の実施事務をする中で、投票所・掲示場の数、有権者数に応じた投票時間の短縮等、常に合理化を進めるべきである。

また、投票所の中には有権者への交通安全対策が必要な箇所がある。対策を講じられたい。

若年層の投票率を上げるべく検討を図られたい。教育機関と連携して啓蒙活動を効率的にするべきである。

今後の展開方向

- ・ 継続 (改善を図りながら継続)

6. 老人クラブの運営支援

正当性評価	
○公共性の評価 (市がどうしても行わなければならない事業であるか)	B
○公平性の評価 (税金が公平に分配されている事業か、適正な受益者負担がなされている事業か)	C
正当性評価のまとめ	B

効率性評価	
○有効性の評価 (施策の目的達成に貢献している事業であるか)	B
○効率性の評価 (コスト削減の余地がないか、もっと有効な手段、方法はないか)	B
効率性評価のまとめ	B

改善提案

高齢者の生活の知恵、社会的経験を地域に還元する意味でも老人クラブの活動は重要であるが、会員数は伸びておらず、市街地では加入率も低い。

見守り活動のような参加人数が高く、地域の方々の要望も高い活動を柱として参加の促進をする必要がある。また、老人クラブというネーミングも含め、参加、活動のしやすい組織にしていくことが求められる。また、定年が延長されている現在において 60 歳という加入対象年齢について見直しを検討されたい。

一方、ある年齢以上の市民を 1 つにして組織化するということが現在の時代に沿うものであるかそもそもの存在意義を見直すこと、また市の補助額についても見直すことが必要である。

今後の展開方向

- ・改善

7. こども元気プラザの運営

正当性評価	
○公共性の評価 (市がどうしても行わなければならない事業であるか)	C
○公平性の評価 (税金が公平に分配されている事業か、適正な受益者負担がなされている事業か)	B
正当性評価のまとめ	B

効率性評価	
○有効性の評価 (施策の目的達成に貢献している事業であるか)	A
○効率性の評価 (コスト削減の余地がないか、もっと有効な手段、方法はないか)	B
効率性評価のまとめ	B

改善提案

子育て中の親子の交流の場の提供、子育て相談、ファミリーサポート事業の預かり場所等として、多くの人々が便利に安心して利用している施設であるが、地域ごとに利用者のかたよりがみられ、市内全域での効果は出ていない。

今後、開催検討をされている子育て支援センター未開催地域での出張ひろばの開催に加え、行政及び諸団体の子育てに関する事業と常に連携を図りながら、市内全体における事業の充実をすべきである。

また、幅広い層の保護者の方やお子様が利用できるよう、日曜、祝日に開館するということも考えてはどうか。

今後の展開方向

- ・継続（改善を図りながら継続）

8. 商店街活性化事業

正当性評価	
○公共性の評価 (市がどうしても行わなければならない事業であるか)	C
○公平性の評価 (税金が公平に分配されている事業か、適正な受益者負担がなされている事業か)	C
正当性評価のまとめ	C

効率性評価	
○有効性の評価 (施策の目的達成に貢献している事業であるか)	C
○効率性の評価 (コスト削減の余地がないか、もっと有効な手段、方法はないか)	B
効率性評価のまとめ	C

改善提案

恵那市中心部の商店街は人通りが少なく、厳しい現状である。商店街の活性化を図るべく、空き店舗の活用をするための事業が実施されているが、効果は今ひとつである。

活用できる空き店舗を明確化し、利用者の公募をされたい。また、商工会議所及び商工会と連携してさらなる事業のPRを実施されたい。

また、現在の企業支援事業を基盤として起業意欲を高める啓発活動をするなど、セットで活性化を図られたい。

今後の展開方向

- ・改善 (活用の検討を含めた改善)

9. 明智観光関連施設管理事業・大正村コテージこもれび管理事業

正当性評価	
○公共性の評価 (市がどうしても行わなければならない事業であるか)	C
○公平性の評価 (税金が公平に分配されている事業か、適正な受益者負担がなされている事業か)	C
正当性評価のまとめ	C

効率性評価	
○有効性の評価 (施策の目的達成に貢献している事業であるか)	B
○効率性の評価 (コスト削減の余地がないか、もっと有効な手段、方法はないか)	B
効率性評価のまとめ	B

改善提案

大正村コテージこもれびは管理が行き届いたよい施設であり、他の施設との関連性もよいが、市内外への周知が不足しているのが現状である。

大正村でイベントの際の宿泊、社員の研修利用の促進等多面的なPR活動に努められたい。また、市内にある類似施設とネットワーク化して活用できる工夫、一体となった情報発信を検討されたい。

千疊敷公園については子供が利用した際の安全面に配慮した管理をされたい。

今後の展開方向

- ・改善 (PR 活動の充実を図られたい)

10. 正家廃寺跡保存整備事業

正当性評価	
○公共性の評価 (市がどうしても行わなければならない事業であるか)	A
○公平性の評価 (税金が公平に分配されている事業か、適正な受益者負担がなされている事業か)	B
正当性評価のまとめ	B

効率性評価	
○有効性の評価 (施策の目的達成に貢献している事業であるか)	A
○効率性の評価 (コスト削減の余地がないか、もっと有効な手段、方法はないか)	B
効率性評価のまとめ	B

改善提案

奈良時代の恵奈郡の文化を理解する上で正家廃寺跡は貴重な文化財であり、保護をすることは重要なことである。また、市民との協働事業とする意味合いも大きい。

しかしながら、その文化的価値が市民に十分に理解されておらず、事業費も大きい。市民に幅広く知っていただき、事業の理解を得るべく積極的な広報をされたい。同時に今後の保存整備計画のイメージを明確にして市民に周知を図られたい。

また、平成13年に国の史跡に指定されてからの取組みが遅い。計画的に進められたい。

今後の展開方向

・継続（今後の保存整備のイメージを明らかにすることにより市民の理解を深め、計画的に事業を進められたい）

4. おわりに

今年度の評価委員会は8名の委員が昨年度に引き続き、事務事業の評価を行いました。全員が経験者であり、効率よく会議を進めることができ、議論を深めることができました。

事業評価にあたり、現地視察や担当課職員から事業のヒアリングを行い、また委員の中でも意見が分かれるなど様々な視点から理解を深めることができました。

昨年度に引き続き、公共性及び公平性から正当性の評価を、有効性及び効率性から効率性の評価を行い、正当性評価及び効率性評価及び事業内容等から事業の今後の方向性を評価しました。

正当性評価のまとめはA評価が1事業、B評価が6事業、C評価が3事業、効率性評価のまとめはA評価が1事業、B評価が6事業、C評価が3事業でした。全体としての今後の方向性は1事業を維持、5事業を継続、3事業を改善、1事業を検討として提言しております。

各事業においては担当部署だけでなく、他の部署や他の事業と連携することによってより効果の出る事業、効率性の上がる事業があり、今後その点を意識して事業を進めていただきたいと思います。

この提言書は、市民の様々な視点から客観的に評価し、意見を述べているものです。本提言書が今後の行政事務に有効に活用されることを期待し、積極的に事務の改善に努められることを要望いたします。

平成 26 年度恵那市市民評価委員会名簿

No.	氏 名	選 出 団 体
1	◎市川 美彦	恵那市市民評価委員会
2	大竹 典子	公募
3	奥村 ひとみ	公募
4	○田口 譲	恵那市市民評価委員会
5	柘植 麻美	恵那市市民評価委員会
6	平野 未帆	恵那市市民評価委員会
7	宮地 政臣	恵那市市民評価委員会
8	三輪 哲司	恵南商工会
	竹内 泰夫	政策評価研究所（オブザーバー）

※五十音順に表記。敬称略

※◎は委員長、○は副委員長